WASON
HQ
1104
J74+

驛遞局認可

明治十九年十一月五日發行

毎月三回發兌
一冊正價五錢
一ヶ月十五錢

女學雜誌

第四十號

東京　女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 40. NOVEMBER 5TH, 1886.

第四拾號

EDITORIAL: A Word to Friends of Woman's Rights.

LEADING ARTICLE: Novels of the day, by Mrs. T. Nakashima.

MISCELLANIES: Sexual Affinities; Dietary Improvements and Methods of Cooking: No. II; Home department; Ladies Etiquette: No. I.

BIOGRAPHIES: Epponina; Arria; A woman: II.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

PRIZE ESSAY on "The Education of Japanese Women."

ADVERTISEMENT.

●社說　女權論者に告ぐ

●論說　當今の小說（中嶋とし子）

●叢話　男女合性の事○食物料理改良の談（二）○いへのとも○西洋女禮式

●佳傳　エッポニナ夫に仕へし事○アルリア夫に殉せし事○松嶹佳人傳（第三回）

●寄書　詩二首（中嶋湘煙女史）○其外

●新報　十二則　●廣告

●附錄　女子敎育策懸取文始末（完了）

●珊瑚の玉（十一）

○デウガルドスチウワルト曰く男女兩性の智德今の如く相懸隔するものは思ふに全く敎育の結果ならん但し余が玆に敎育と云ふものは敢て敎師より受得たるの力能をのみ云ふにあらずして彼の地位、躰格、等の何如に因て受得たる性質をも幷せ稱するものなり

○エルリス夫人曰く此故に女子第一の心得はその躰力の男子に劣れるが如く其心力も亦た之に劣れることを承知するにあるなり

○マコーレー曰く古今と何地とを問はず大凡ろ婦人なるものは或は卑劣なる同類となり或は玩弄を受る人となり或は囚人となり或は家來となり或は重荷を負ふ所の動物となれり而して今尚ほ斯の如き者あり昔し若くして今ま然らざる所あるなり此故に文明開化の社會たゞ僅少を除くの外は婦人は皆これ奴隷となれるものなり婦人を優待する特に篤しと云はるゝの地にも尙ほ法律は婦人に十分の利益を附與するとなきが如し

○ミル夫人曰く男女の力相違すると云ふ者は一半を敎育し一半を放任して彼此遂に相同じからずと云ふもの也

女學雜誌第四拾號　明治十九年十一月五日

●社說

○女權論者に告ぐ

明治十七年の末政談の價追々に低くなり民權論や丶人に厭れる丶趣となりぬ此時一には粗暴の言論を制さる丶官の用意いよ〳〵密に彌りて二には不景氣を歎ずるの聲やうやく喧しくなりたれは辨士は演壇に立上て滔々と演說したる往時の勢を失ひ有志者は四方に奔走して政黨の擴張に盡力したる其上の勇を損しぬ。左れば形勢此時よりして一變し改良の議論やうやく世に出でたり先づ女風の改良を論ずる者あり家屋衣食の改良を議する者あり此に交際を洋風に改めたしと述る人あればハ彼にハ宗敎の改良を主張する人もあり髮の結び方を束髮に改めよとの議論盛んになりて足駄は靴の便利あるに替ゆべしと申す者もありけり時勢斯の如くにして遂に今日此頃とはなりぬ今日演劇改良、衣服改良、食物改良など云へるもの尙多く輿論を惹きて此後にも改良の議論更に續き出でん氣色あるなり

日本の女風を一變すべしと云へる議論は改良論の率先となりて世に出でたるものなり左れバ其世人の注意を促して實際に正當の進步を收めたるとも亦尠きにあらず先づ女を輕蔑する所の蠻風は既に其幾分を減じたり女に敎育を得させんとの策は既に多く世に行はれぬ婦人社會が改良論の爲に得たる實益はかの衣食住と云ひ交際、裝束、演劇などと云へるものに於けるよりは遙に多かりしこそ尤も感謝すべき幸福なるべし然れども世上の形勢は轉々として定り難き者なり特に一時の流行を驚喜する我國の如きに於てハ此變化また尤も甚しかるへし往日政談に囂々たりし口は既に早く改良の論を吐きたり今日改良の論に喧ましき者は安んぞ明日他の方向に向つて轉じ去るとなきを知らん思に當今の輿論も亦遠からずして一轉し去るべきもの歟今や物價漸く騰貴して景氣や丶恢復したり改良の論も既に飽かれんとするの徵ありて政論の復興は此頃既に其兆あり若し一陽來復して明治二十年の春ともならんには改良の城に蟻集したる人兵とも分取なきの城攻にあぐみ果てゝ先づ遠略の策を獻じ終に總軍城下を立退きて一方に鋭を轉するに至らんは機を見る人の既に察知する所なるべし改良論と云へる者の若し眞實に價あらんには此際われ一駒踏止りて長阪橋上の將軍ともならんとす况んや今ま未然の時に當

り安んぞ斯る不吉の言を呈して其退軍を憂へざる者の如くすべき然れ共改良論は其實餘りに實効あらざるものあり其論やたゞ世人の注意を惹くに足るべしこれを以て直に事物の改良を爲し得べしなど思ハんは實際に迂遠なるの甚しきものあり故に吾人は其論の退き去らんことを恐れずして其の少かだも實際の効能を殘さゞらんことを恐るゝもの也故に今日に所云る彼女權伸張論者に對して吾人が特に注意を仰ぐ所の者も亦實に此一點に止るとなり

抑も方今女權を伸張せんとする者は先づ今の婦人の爲に深く慷慨して其愍むべきとの爲に特に歎ずる所なくんばある可らず彼は吾等の姉妹にして未來の兄弟の母たるものあり其地位の低きは啻ゞ其爲に忍ぶ可らざるのみにあらず實に後世の爲に免す可らざるの禍源あり故に凡そ眞正に人權を愛して誠意國家を重んずる者は必ずや先づ今の女流を開化せしむるとに盡力せざる可らずこれ世人當に務むべきの務と云ふべし故に改良論中の流に掉さして只だ一時の流行を趨ひ以て日本の女風改良せざる可らずなど申す者は餘りに末頼母しき論者にはあらず今の女權伸張論者たらん者は斯る流行論を利用して世人の注意を惹き以て大に爲すあるの便に供ふるは可なり苟くも之を以て其議論の進退となし近くに改良論の總軍百里外よ舍を移さんとき是れ吾終也など絶念して其盡力を中止するに至らんは尤も不可なるとあり故に吾人は預め之が注意を引て斯る事變に會するの覺悟を具へしめざる可らず

大凡そ事物の進化は皆み順を追ふて成る者なり日本の女風を改良するに至りて獨り一二年中に其全事業を了するの故あらんや吾人先づ大和男子をして其好尚を一變せしめざる可らず吾女流社會をして敎育に熱心せしめざる可らず女子授產の策講ぜざる可らず財產を女兒に分與するの制設けざる可らず結婚の條例定めざる可らず終に娼妓を全廢して女性の地位を高うし女の道念をすゝめて世の道德を女流に維持せしむるの地に至らざる可らず吾黨の務むべき所の者は既に如此なるが故に改良論一時の盛衰ハ吾黨に多く損益あるものにあらず吾黨の盡力は數十年内外に涉るべきものにして敢て一二年の間に止るものにあらざる也流行の説或は轉ずべし如此き覺悟は輕々しく轉す可らず吾人盟つて此重任に當るの万一とあらんそす思に同好の論者亦敢て此責を輕しと爲さゞるべし吾人ハ其實に然らんとを希望して止まざるもの也方今の勢機に感ありて遂に一言す

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

叢話

○男女合性の事

男水女火合性わろし女土男木初よく後わろしなど云へるは古の姫鏡女必讀などに欠たるとなき教なり男女合性若しかゝる調寶の手段によりて明かならんには瑟琴和樂と云へる夫婦を得んにも敢て難き所あらじ斯ては閨に怨をこらす可憐の妻外に家を忘るゝ亂暴の男子もあらずならん古人は斯る便利の方便あるが上になど出雲の神など申すを賴みつらん彼の合性の占にて事足らんには最早妹脊の幸をねがうべき必要もあらざりしあらずや然れども事の實際は全くこの反對にあり水と火とは宜べ相合ざるものならんとも水性の女必ずしも浮薄ならず火の性の男みな癇癪づよきにあらざる以上は斯る考よりの調合は固より誤なきの結交を得さすべきにあらず水火の男女結句よく相合ふて木土の夫婦初より和せざるなど世上の實例比々として數多ありたるとあり

凡そ合性を知らんには先づ人の性質を穿ち知るの工風なかる可らず然るに人の知り難きは古今の賢者が夙に慨歎する所にして善悪正邪の兎角に判別しがたきは聖人尙ほ憂とせり昔し楊子我の生るゝ時叔向の母はその泣き聲を聞て此兒家を絶やすべしと悟り桓溫の生れたる曉には溫嶠其聲をきゝて異の英雄ならんと判じたるなど東洋には不思儀なる人相法もありしやうに思はるゝあり然れど孔子は陽虎に似て盜跖は柳下惠と兄弟なれば只だ顔ばせ相貌などをもて其人を知らんは容易の事にあらず況んや一叫の泣聲、一席の談話、に其人を見拔など云へるは固と稀れに當るべき妙方にして多くは行はれまじきものなるべし然らば吾人何如して人の性質を知らんか人の性質知らるゝにあらずんば吾等何如にしてかの合性なるものを定め得べき

今や男女相擇の論頻りに行はれて夫婦はその性の相合もの互ひに結交すべしと云ふその尤もなる議論なるは何人も不同意なき所なれども實際何如にして斯く相擇ぶとを爲し得べき乎男女交際尙ほ廣く行れざれば彼此互に氣質を穿ち得るの便あるべからず例令ひすでに其氣質を穿ち得たるも彼の所云る合性なるものは其理甚だ隱微にして容易に悟りがたきものありなか〳〵に當今の女性が一己の力にて之を穿ち之を定るの望あるまじきあり

特に女は淺墓なる考の少からぬものなり人前をつくろへる親切氣の男あらば直ちに之を無上の人物となし僅かに虚名かひ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

たる才子を見れば之を此上なき英才と思ふ女は至つて人を見るの眼に乏しきものなり斯る眼をもつて人を知り其知りたる心を以て性の合ふ所を定めんとす何如であやまらざるを得ん一個の才子ありて人々之を賞めそやせば直ぐにも己が娘を歸がせたく思ひ心優なる乙女ぞとの評判をきけば之をもて早くも息子の嫁となさまく欲するは惣じて女の心なり何如でその間に言ふ可らざる合性など云ふとのあらんを知るべき嗚呼事情此の如くして濫りに一生の交を定め結婚の後直ちに豫想の當らざりしを悟る後悔及び難きの夫婦は今はた幾千かあらん慨きても亦た歎くべきとなり思ふに此れ其源は女が人を知るの力なきにあり近くはその合性を定るの覺悟足らざるに因る當今かの木火土金水の調合すでに合性を示すに足らずとせば之に代つて結緣の媒すべき教のなくては適はずあゝ世に果して之れなきか吾人は他日多少の愚考を述んと欲する者也

○食物料理改良の談（其二）

思ふに我邦先代の人の食物は當今用ゆる所の品々よりも倘更に粗惡なりし歟天正の頃はたゞ乾飯を食としおあんの物語には菜飯を最上の馳走と思へり執權北條時頼が大佛宣時と酒を飲むに味噌を肴とし織田信長が角力の褒美に燒栗三つを用ひたるなど何れも當年の質素を見るべし其比の食物また大抵は之によりて推し測らるゝとなり爾來世の開化と共に人民生計の度を高ふし昔にあらざる料理など折々に行はれて食物の品柄も漸くに立上りたり故に若し當今の食物を元龜天正の昔に比せば其優りたるは固より言に及ばず近くは之を德川氏時代の品に較ぶるとも倘やゝ優れる所あるを知らん然れども吾人もし之を歐米各國の食物に比し近くは之を支那朝鮮の料理に較ぶれば吾國の品の及ばざるは一目にして甚だ明なるを見るなり今ま其一證として淺墓なる例一つを示さんに彼の英佛其外の國々にて丈夫なる兵卒一人に給する食物は必らず左の如き養分を含むべきものと定まりたり

蛋白質	一三五、一一	澱粉及糖	一五五、六八八
脂肪	一一、六二七	無機質	五、九四八

然るに我國にて當今日常の食料とする米、魚、菜等より斯る程の養分を取らんには到底胃腑に納まるまじき多分の量を食はざる可らずこれ決して爲し得まじきとなり先づ蛋白質と云ひて人間に最も必要なる養分を玆に云ふ程の分量にて取らんとせば米ならば大抵一升三合の餘をも食べざる可らず何如に大食の人なりとも日にこれほどの飯米を用ゆるとは得能はざる

べし然らば西洋の人々は何如にして此程の養分を日々躰内に取り得るかと云ふに是れ必竟其食物の我國とは異るに因るなりそも〳〵米、魚、の如きは蛋白質など云へる大切の養分を含むとの甚だ少きものなり况してや數多の野菜類は殆んど之を存せざると云ふも可なる程なるに獨り牛肉羊肉豚肉など云へる肉類は甚だ多く之を含むを以て其四半斤を食ふとも米二三斤を食ひたるには遥かにまさるべき程の養分を取り得るものなり然るに西洋人を初めとして彼の支那人朝鮮人に至るまで多くは平常肉食を主とし米魚野菜の類はたゞ之に副へて食ふと云へる趣なればさては胃腑に入るゝ食量は日本人よりも少なくして躰を養ふの効能は之よりも遥に優る所あるなり

此故に世間の事務斯く繁忙となりて人の心身を勞すると昔日の四五層倍となりたる今日には昔よりも稍や立ち上りたる程の食物は尙よく之に匹敵せざるなり心身を勞するとの增したる程に食物をも亦た改良すべきは勿論なり苟くもかの西洋人なんどと事物の競爭を爲さんには是非とも其者等と同樣の食物を取りて同じ程に心身を丈夫にせざれば適はず况んやかの支那人朝鮮人に劣るをや我國當今の食物は一日も早く改良せざる可らざる也

然らば何如に之を改良せんか、他なし、成るべく肉食を多くすると是也今日野菜を買ふと魚肴を求るとは左程に入費の異らざることあり斯る時には無論野菜を止めて魚肴を買ふべし又た魚肴よりは牛肉の類わりに廉價なるものなり故に成べくば魚肴を止めて牛肉を買ふべし大凡そ口に飽かざる限り、價の左程に違はざる限り、常に牛肉を用ゆるを以て方今食物改良の目的となすべし斯てならんには牛肉の價いよ〳〵安うなりて之を用ゆる者も亦た追々に增加し遂に西洋諸國の如く肉を以て主なる食物となし得るの運に至るべきなり

然るにかゝる心得は妻君たらんものゝ尤も注意すべきとす女が四足の肉を食べてはナド愧らひたるは源氏の昔にこそ其品格を氣高せしめ當今文明の世の中には斯る不開化の厭慮に衞生の大事を忘る可らず其夫が日々の激職に躰をつからせたるを見ば成べき限り之に滋養を得させて健康を保たすべし愛兒を學校に送りて勉强さするとも菜根を食はゞ百事成るべしなど云へる愚ろかの敎を守らす可らずくれ〴〵も之に肉食させて其躰を丈夫にならすべし是れ妻たり母たるものゝ當今尤も心得べき大切の事なり

尙ほ料理の改良法は後號に述ぶべし讀者亦高見を惠投せよ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○西洋女禮式（一）

曩に西洋禮式と題して男女に通ずる禮式の一般を說きたり之に尙ほ足すべき所あれども他の新聞紙に於て既に掲げ出せるもあれバ其を一と先づ完了となし此よりはたゞ女流に關する禮式をのみ述ぶべし思ふに之れ當今に有用の事なり

衣服の部

衣服は善く時に相應すべし朝華美の服を着ると又た夕べに朝服を着するとなど共に爲すまじきものなり

總て朝は淡泊にして重やかならぬを着し、運動若くは乘車の折には絹の黑服を着し、正食又は宴會には華美透明なる織物もてつくれる長服を着すべし。特に年若き娘は朝の間成べく淡泊に裝ふべし朝服の色上下そろいたる上に襟飾カツフなど無地のリンチルならんには之に過たる裝ひなし

街衢を逍遙するとき衣服を華美にすべからず車に乘じて運動するには自由に裝ふとも差支あるべからず

衣服の色摸樣は一日の内にも變化しやすき流行によりて可とあり否ともなるべしされど容易にかはるまじと思はるゝ元則五つ六つあり之を式の心得と見るも不可なからん

茶褐色濃く髮毛黑き人は深色の衣服を可とす。奇麗にてかよはき風の人には淡淺の色の服をよしとす。年若の人には白色を最良とす。踏舞に絹服を不可とす。甚だ鋭剛らしき人は決して白色の服を着く可らず。朝服には黑と緋又は黑とスミレ色をよしとす

年若の人は服に寶玉を多く着るを不可とす總て若き娘及び未だ嫁せざる婦人は眞珠をよろしとす

街衢を行く時手袋を穿たざるは宜しからず又手袋は必ず小山羊又は小牛の皮を以てつくれる者なるべし

香はたゞ夕にのみ用ゆべし又用ゆべき香は必らず上品なるべし下品の香を用ゆるは非常に不可なる中にもかの麝香は最も不可なるものなり

○いへのとも

答の部

○十五の答　姙娠前後產婦の心得何如と云ふ問に對し女子必讀の著者進藤直温君より左の條々を答とし惠まる

懷姙したる後は特に躰の養生に注意し消化の易く且つ滋養の十分なる食物を用ゐ酒類又は辛物及び極て酸きもの脂肪の多き魚鳥獸肉或は茸菌の如き或は不熟の果の如きすべて消化の易からざる物は決して飲食をなすべからず

懷姙の後は最も心を眞正にし其胸裏の快然なること恰かも麗はしく能く晴たる一點の塵埃なき大空の如くすべし假りにも私慾を謀りて人の爲を省みざるやうの邪なる心を發すると勿れ此母の思念は即ち小兒固有の性質となれバなり抑も兒の胎内にあるや其始め智覺なきが如しと雖も日を送り月を經るに隨ひ神經系次第に備り母が已の皮膚に寒きを覺ゆれバ胎兒もまた此寒さに感ずべく母が帶を少しく強く締れバ胎兒は其壓迫に苦み自ら身躰を動して之を避んと欲する如し母樂めバ胎兒も亦樂み母怒れバ胎兒も亦怒氣を發すべし故に懷胎中は常に氣を和げ心を樂しくし怒り怨み憂ひ悲み或は驚き怖るゝとなきやう注意し若いとまある時は忠臣孝子等の事蹟を記したる書を讀み決して無益の稗史などを讀む可らず

兒の初て生れたる時に藥を與ふるものあれども更に益なくして反て害ありとす兒生れてより數日を經て死する者は多く此藥を飲ましむる爲に腹を痛むるに基すればなり抑も兒の生れ出でたる後其空腹の容子を見るとあればへ概ね生れたる後五六時間目）此時直に母の乳を飲ましむべし此初乳の内には兒の胃腸に働をつくる實に屈竟の良藥を含めるものなれバ決して他人の乳又は藥などを用うる勿れ

乳兒の浴湯せし後は直に乳を飲す可らず榮養に害ありとぞ

同前の答　又小兒健全示要の著者岩田文吉君より同前の問に對し答文を寄せられたる大意は左の如し

姙娠の初め一二個月間は格別母親の身躰に差し響きするとなきも月を累ぬるに從ひ其内部の趣甚だ平常に異なるを以て平常に在りては左迄の害ともならざる如き養生の瑣少の過失も此時に於ては亦大害ともなり易ければ姙娠の間は養生に一段の注意を要するとなり去ながら姙娠は素より生理の範圍に在るものにして毫しも病機の混する者にあらざれバ能く此點に心を置き養生すると緊要なり故に夫の姙婦の或は種々の食忌をなし或は平生慣れたる操作を止め起居を縱にし偏に身を懶惰安逸に置くを得意とする如き古來の習慣は宜しからぬなり

故に姙娠中食物は香味辛辣の者と強熱の者とを除くの他は其人の常饌として食し慣るゝ所の者は皆食して妨げなし否妨なきのみならず反て其慣れたる者を用ゆる方緊要なり故に人の常食は富貴と貧賤とに由て差別はあれども矢張富貴は富貴貧賤は貧賤の食を採るべし只だ共に度を節して飽食に至らぬ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

樣心掛くべし
運動は養生法の緊要事なること云ふ迄もなきが妊婦には別けて大切のものと知るべし故に晴朗の日和には戸外に出て逍遙散歩し雨天か烈き風ある日には家に在りて平常慣れたる操作をなし以て懶惰安逸を避くべし蓋し懶惰安逸は諸種の病を醸すのみならず胎兒の虛弱と分娩の困難を誘ふ者あり但し運動に就ては身に疲勞を覺ゆる如き勞動は反て害ありと知るべし
精神のことに付ては胎兒は一に母親の精神に似る者なれば母親妊娠中の精神に由て其子女をして活潑とも智愚とも怯懦共なし又誠忠とも邪横ともなし得べき者たることを心得て可成活潑愉快に又誠實に心を置くことを忘るべからず
身躰を清潔にすることは妊娠中には平常よりも別けて大事と知るべし但し清潔にするにも成丈低温の湯に浴すべし
衣服は別て下腹及び足脚を温暖に保つべく注意すべきも緊迫にして起坐屈伸に不自由なるが如きは宜からず問者も綳帶を致したと云ひたるが綳帶は本邦にて妊娠五個月目の儀式の如くに成り居れども之は致しても致さずとも宜しきが多くの人の中には胎兒若し過分に發育するときは分娩を困難ならしむる恐あるから是非共之を以て腹部を緊結せねばならぬ樣思ひなす者掛からぬが惑へるの甚しき者と謂ふべし此外妊婦の心得べきは大小便の通利なり之は平常にも忽にし難きとなれども妊娠中は妨を受け易ければ別て注意すべし
出産の時の心得方は豫め頼み置きたる產婆の心得居りて適當の指圖及び取扱をなすべきとなれば別に云はずとも宜からん唯次に記する法方によりて知りたる出產期日に近かば豫め產幷に赤子を取扱ふに慣れたる者を傭ひ置くと空氣の流通の能き靜なる房室を產室に當て置くことを用意すべし產して後は赤子を此婦人に托し自分は豫て敷き設けたる新鮮の臥牀に轉臥し獨り安臥睡に就くべし覺て後は不斷流下する惡露の不潔を掃淨し日々內部をも洗滌すべし然ども產婦は精神と身躰を安靜にすると極て緊要なれば少きも一週間長きは二週間の程は何事も自身の力にてなすべからず必ず他人の祐挍によるべしまた兒の健育を希望するの他は何事も顧みざるを良とす
產後二十四時又は三十六時を經て乳房膨滿して乳汁出で來らば直に嬰兒に飲ましむべし乳汁は初め數日間は滋養に兼て子供の胎內より持ち來れる胎兒便を利下する自然の妙効ある者なれば最早まくりを用ひずも宜し然るに無識の者共は初乳に

れ一種有害の性ありとて折角の造化の妙配物を措てまくりある人工の配合物を飮ましむる者比々皆然り愚と謂べし
産婦の飮食物は初め三四日の間は「スープ」、牛乳、葛湯、雞卵、白粥の類に止まり此日數を經て食慾次第に進み來らば次第に消化の良否に注意しながら常食に復し軟き鳥獸の肉魚肉及び小量の野菜類を食すべし但し一二週の間は香味品を除くべし
産婦の全く常態に復するは六週間を閲するを以て此日子を經るの後始て通常の勞作をなすに至るべし
以上は産婦姙娠の心得方を畧說するのみなれば其精細を知らんと欲せば余の著せる小兒健全示要に就て觀らるべし
また豫じめ出產日を知る法は最終月經の月前三箇月を減算して最終月經の止みたる日に五若くは七を加算するなり例へば一月一日に月經止みたらば前三月を減じて一日に五若くは七を加算す即ち十月六日より八日の間に分娩のあるを知が如し
〇〇十七の答　讀て宜しき西洋小說の名目を御答ありしが此頃のポールモールバジエット新聞よペルキン氏が良好の小說一百種程を古今の著書中より撰び出して投書ありたるをABCの順に直ほし左に記るして彼の問を寄せられたる人の參考に供ふ（木村ゆう）

Adame Bede.
Amber Witch.
Anastasias.
Antiquary.
Arabian Nights.
Bachelor of the Albany.
Betrothed. (Manzoni's).
Bleak House.
Bride of Lammermoor.
Challenge of Barletta.
Chales Anchester.
Chales O'Malley.
Chuzzlewit.
Coningsby.
Consuelo.
Copperfield.
Corinne.
Counterparts.
Cruise of the Midge.
Decameron.
Dombey.
Don Quixote.
Elsie Venner.
Esmond.
Eugénie Grandet.
Fadette (Fanchon).
Fair maid of perth.
Fortunes of Nigel.
Gile Blas.
Gulliver.
Guy Mannering.
Handy Andy.
Harry Lorrequer.
Heart of Midothian.
Horseshore Robinson.
Household of Sir T. More.
House of the Seven Gables.
Humphrey Clinker.
Hyperion.
Ivanhoe.
Jane Eyre.
Japhet in Search of a Father.
Kavanagh.
Knickerbocker's New York
Lady Lee's Widowhood.
Last of the Mohicans.
Legend of Montrose.
Les Misérables.
Love me little, Love me Long.

Mary powell.
Middlemarch.
Midshipman. Easy.
Mill on the Floss.
Minister's Wooing.
Mysteries of Paris.
Monte Cristo.
My Novel.
Newcomes.
Nickleby.
Notre Dame.
Old Mortality.
Oliver Twist.
On the Heights.
Pendennis.
Peter Schelemihl.
Peter Simple.
Pickwick.
Pilgrim's progress.
Pilot.
Prid and prejudice.
Quentin Durward.
Robinson Crusoe.
Rob Roy.
Romola.
Scarlet letter.
Sence and sensibility.
Sintram.
Spy.
Tale of a Tub.
Tale of two cities.
Talisman.
Thisdolf.
Three Guardsmen.
Tom Cringle's Log.
Tome jones.
Tom Brown at Oxford.
Tom Brown's Schooldays.
Two years ago.
Uncle Tom's cabin.
Undine.
Valthek.
Vicar of Wakefield.
Wandering Jew.
Wilhelm Meister.
Woman in White.
Woodstock.
Yeast.
Young Duke.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●論説

○當今の小説

中島俊子

言を聞て能く其事の是非を判定し書を讀んで能く其説の利害を判定し得る者(縱然ひ其判定の如何にあるにもせよ其人自ら以て之を是とし之を非と定るを云ふ)が容易に人の言人の説に一致せざるものは胸中既に已れあり所謂一量見ありて輙く合同せんと欲するも胸中の己れに障碍せられて能はざることあり此の如き人には利益の説も容易に耳に深漸すると難きと共に妨害の言にも容易に一致せざるの徳あるものあり然れども之れに反して禪にて言へは胸間無一物とも稱す可き人は甲者の言を聞て直に感心し又乙者の説を聞ては是れも道理と考へ常に一身を人言に左右せられて其針路果して何の點に當るかを知る可からず危險之に過る者は蓋し少からん

是を以て書に著す處の筆力も隨分人の針路を左右するに足るものなりと信す付ては余が甚た疑ふ可きの點は今日即ち明治時代に於て續々世に出る處の小説本の如き又新聞上の續きものゝ如き筆勢發々綠波疊んで又拔き魚鱗躍りて定まらざるの形容ありて讀者をして己れ愁へなきに自から泣き己れ樂みなきに自ら笑はしむる如き事でか漁者が竿を垂れて魚を獲るの樂みに比す可けん然れども筆者が唯だ讀者をして自由に笑はしめ自由に泣かしむるのみの目的なれば素より論の無き事ながら若し之れを世教の補ひの爲めと云ひ世の風潮を一變せしめん爲めとか云ふとあれば聊か疑ひ怪む可きものあり此類の小説中に婦女が其父兄若しくは夫婿が貧困に陷る等の塲合に際して身を花街に暴らし紅品紫評以て遊蝶の狼藉に委す等の事を記するとありて往々夫の昔し文句の貞女を破りて貞女を立るなどの語を以てするあり固より實地此の如き塲合ゝ遭遇したらんゝは如何なる悲歎なるか譬ふるに物なからん然れども一方より之を考ふれば決して之れを賞贊し後者をして其轍を踐ましむ可きものに非るならん昔の婦女子が種々辛酸を嘗め極度心ならずも所謂貞を破つて貞女を立つるなどの悲歎慘傷に墜落したるの情は余も千萬之を察し決して氣の毒の至りと云はざるに非るなり然れども之れを尙ほ今日に賞揚し今に至るも彼の如き昔し文句を敎の言葉となすは果して世敎に益あるものとするに因るか余は實に此の如き言句の眼頭に觸れざるを好むもの也演劇を嗜しむ者が其演劇を觀る間俠客の出る段を見ては既に己れも俠客の氣取と爲りて己れも世に在る限りは此の如き働きを爲すこそ愉快なりと考へ又幕改まり

て白馬金鞍の貴公子が馬を春風の街に繋き紅襟翠袖解語の桃李に取り圍はれ酒池肉林の驕奢を極るの場を見るに至りては己れ又早くも貴公子を氣取りて己れ男子に生れしこそ幸ひ如何なる計畧を用ゆるとも一度は此の如き境遇に際會したきものなど感動し一幕の改る毎に情思千變萬化飄然風に御して定る處なきものゝ如し殊に婦女ハ心情亦軟弱にして輙く事物に感動し心の移り易きは一般に免れざるものゝ如し宛も夫の演劇嗜と一般なり故に小説體の書を見て絲竹の里に身を沈め父兄若くは夫婿の困苦を醫するを賞するを讀んで之を婦女の身には最大なるの名譽と感し自分も若し此の如き境遇に際會する時だもあれバ必す是れ等の婦女を學ばんなど多くの婦女子の中には考へ出さぬ者なきとも未だ確かに請合ふと能はさるなり

筆に巧みなる才人等が自由に艶話綺説を寫し出し唯讀者をして巻を逐ふて厭く處なからしむるの目的にて綴り出だすものは亦奈何ともす可からざるとなれども舊習を洗除すべき道德の先鋒者たる新聞紙上に於て時としてハ尚を艶話綺談の聲を發して讀む能ハざるのみならず尚ほ依然たる昔文句を認め出して婦女が絲竹管絃郷に身を沈むる等を咎ざるのみか隱然之を稱賛するものゝ如きあるは一般思慮に乏しくして輙く移り易き婦女子に取ては如何なる感覺を引き起さしむるものなるか余は實に危ぶまさるを得さるなり然と雖も貞女を破て貞女を立る如きの語は尚ほ勢力を帶びて世を去る能はざる者とせしならは余は口を掩て默考し更に其然る所以を聞かん

●佳傳

○エッポニナ夫に仕へし事

前號にカムマが貞を守りてよく夫の讐を報へしたる美談を掲げたるが此に勝るとも劣りなき當時の貞女は彼のエッポニナと云へる婦人の事なるべし其夫ジウリアスサビナスと云へるは時の酋長ベスパシアンに反して戰を起したるに運拙くして打負たり直に走て日耳曼に入らんとしたれど家に殘せる愛妻の事など思はれて英雄の心もさすがに情羈を斷ずる能はず別莊の土窟に身をかくして家に火を放ち世にはサビナス自害したりと流言させぬエッポニナ之を聞て慟哭し三日三夜食を斷ちて地に伏たり然るに家童耳に口よせて實を告たれバ悲顔乍ち去て浮世の面目も一變したらんに屹と思直して尚ほヨヽと泣きつゞけ痛哭すると前よりも太甚しかりき然れど夜に入れ

バ密にかの土窟に趣きて夫に奉仕し晝は家に歸りてひたすらに歎き悲みたり斯すると一日も變りなければ人皆な之を憫みてサビナスの存生を覺るものもあらざりき斯る内に夫の種を宿し妊娠十月に至れど遂に秘し終うせ期に臨みて土窟に入り恙なく双子を舉げぬ奉仕九年の間一日として心を盡さゞるなく晝は市に痛歎して夜は夫の鬱を慰む苦心貞節思ふべきなり然れど後少かの事より見現はされて夫が刑に定りたる時エツポニナの哀訴もベスパシアンの心を動すに足らず切めては夫と共に刑されんとの願やう／＼に聽かれて斷頭塲裏夫婦の鬼を見るとはなりにけり

○アルリア夫と共に死せし事

昔しきたアルリアと云へる烈婦あり夫ペータス自殺仰せ付られて切腹するとと定りたるに友人等皆な其夫婦の間を知るが上にアルリアの性としてなか／＼に夫の後に生存らふまじきを案じたれば如何にもして之を助けんと勉たり故にペータスいよ／＼切腹の日となりては友人等固くアルリアを衛り其傍に刃物一だになき樣用心したり然れどアルリアは時の進むと共に益々もだへ苦しみたるが突然立つて頭を壁に打ちつけ瞑眩して斃れたりやう／＼に息かへして云へるやうは君等もし妾に容易なる方をもて死することを許し玉はずば如何なる方法をもてだも夫に從ひ參らんと云ふ慰諭勸告到底きかる可らずと見へたれば當時尚武の風隆んなるとてサラバ是非なし晴々しく夫に殉し玉へと言ふペータスも心に之を憫み乍ら先づ劔をぬき取りて妻の胸元さし貫かんとしたれど愛情涙に涌き出でゝ其勢もあらずアルリア奮然として其劔を奪取り己が手もてグザと突き立てたるが深く廻して直に拔き取り「良人此劔は痛を覺へず」と叫つゝ劔を夫の前にさゝげて打伏しぬ

○松嶹佳人傳　（第三回）

家里新太郎は昌平黌に入りて學窓に古今の名士を尚友しまた同學の書生等と討論して日に才學を進めたれば黌中の評判特に高く秀才の名は早くも其一身に集りたり或夕方のことか友人五六名と出で散策したる末江東の青柳と云へる割烹店に登り酒を命じて墨流の景を賞し詩を鬪はして興を添へなどしたるが最前より隣座敷よりひそ／＼と談し聲きこえたる一座ありて最としめやかに見へたるに時々女の泣聲と怒を移したる灰吹の叩く音など喧しうなりたれば新太郎の友人等大に機嫌を損し不快極まる、亭主座敷を替へ一、失敬な奴じや。みなみな一方の樓端に移りたり然るに新太郎は何やらん物を忘たり

とて再び元の座敷に立歸り其處ら尋ね求るとき殺風景の座敷にはかに高き音を發してアレーと叫ぶ聲もろとも襖を蹶倒して馳け出づるものあり、コハと思ふ間に血眼になりたる客人刀ぬき離して追ひそがる、新太郎ツト立寄りて之を制し止むれば先づ馳出でたる女は其後にかくれたり、何を召さるゝや見かけ申せば高貴の御方刀を扱て一婦人を追ひ玉ふと酒宴の場には奇怪と存ず鎭りたまへと云ひ乍ら刀もぎ取りたりその内

從者と見ゆるものも此騒動をきゝつけてや驚き惶てゝ二階に登り來り主人を抱きて新太郎に無禮を謝しなだめ賺して連れ去りたり、アヽ大名らしい者が何事ぞや合點ゆかずと後を顧れば女はやう〳〵に氣落居たる躰して靜かに頭を下げ御惠によりて難を免れ候と御禮言葉にあまり候と云ふ言葉甚だ優なれども見るに是れ藝妓なり、先づ無怪我で重疊々々何如なればば斯る刄物三昧など致したるやと問はれて女はふと新太郎を詠め、アナタは清水でのアノ家里樣、チヽ此はお勝さんか筒井お勝は父が獄裏に恨死したる後母一人の養ひ難さに身を妓流に落して名を小勝と改ため柳橋に籍を入れたる日より佳名急かに起りて招き見る者も多き内に何某と云へる藩士はいたく之を愛し遂には卑しむべき心など口に出してかにかくと迫ことも有りけり今日の亂暴は其思のきかれ難きを怒れるよりの事と思はる今ま亡父と志を同ふして才學を一身に集めたる個の少年に邂逅し小勝の心中何如なるらん之よりして兩人の交情日に密となりて恩愛の情互に入り亂れ遂に淺からず契り合ふことどもありぬ左れば小勝が宴席に陪して探ね出せる景勢なども新太郎一流の耳に入りて志を勵ませしとも多く何かにつけ内助したるとの多かりしとぞ」然るに或日國元より急飛脚到りて父愈仙の病篤き由を申し拙堂先生の添状をも合せて急速歸國せよとの文言あり新太郎一刻も猶豫せず直に江戸を發して伊勢の松坂に歸れば愈仙の露命はや今日明日を限りと見ゆる斗りなりき愈仙重き頭をもたげてツク〳〵と新太郎を詠め汝かく成人して京地に勉學怠なきと父の喜言ふに及ばず然れどわれ夙に勤王の志あれども身衰へて其力なく空しく怨を飲んで今一生を徒にせんとす汝何如ほどに才名を得たりとも其業もし世に効なくんば丈夫の一命を何如んせん此より父の志をつぎて衰微不振の王權を復し一系万世の皇室に忠を盡して世に忠臣たるの務を盡せよと言ふ新太郎轉た慨歎して父の耳に口よせ何やらん委しう語りたるが愈仙の滿面笑を呈するの時是れ瞑目かへす可らざるの時なりけり」少年の慨膽れよく〳〵熱を加へて身を國の爲に許その志さらに篤し直ぐにも再び上都してと思へど拙堂先生初め知れる人々の固く之を止めたれバ遂に帷を松坂に下して子弟を敎育することに決したり然るに其才名を聞て來り學ぶ者日に加わり松崎先生の名は早くも儒流社會に高位を占ることゝなりぬ

前號に松嶋としたるは松崎の誤なり蓋し松崎は家里新太郎の號なり

● 寄書

○舊作二首　湘煙女史　中島俊

舟下玄洋

長海碧於天。奔波高似船。山々無可看。萬里只雲煙。

瓊浦客中

一秋千里去家閭。無復飛鴻寄信書。風露滿天眠覺後。娥眉山上月升初。

○哭木村久重子　駿河臺下の一女子

左の一首は本誌第卅七號新報欄內に掲げたる久重子が大學入校の素志未だ達せざる內に早世し玉へるを哭して某女より寄せられたるものあり

未秀而萎可忍聞。燒香爲誦吊魂文。平生苦得同心友。遺恨當年不見君。

○世の紳士に望む　下野小俣　那穂ます

男尊女卑の弊風を矯め日本の女子をして高尚の地位に立しめんとて彼所此所に女學校の設立あり新聞に演説よ女子教育の必用あることを論説し漸く世間の男女も女子の賤むべからざることを知り女子も又其身の賤しからずして責任の重きことを知るの有様に至りしは實に喜ばしきこともあり茲に余等は世の貴顯紳士に乞ふことあり諸君は女子を愛し女教を重じ女子をして男子と同等の地位よ立しめんとなれバ世の女子を見るに聊意を用ひ給はんことを余等新聞紙を見往々女の德を害し女の地位を汚穢ならしむるもの隱に貴顯紳士の與りて力あることを知る或貴顯は某妓を携ひて避暑の爲め舟遊せりと又或紳士は某妓と某樓に夜を徹せりと其事一二に止まらず余等偶々人の招ぎを受けて宴に列る杯酒を執るものは悉く妓なり然して其談話するところを聞けは甲妓曰ふ昨宵は其貴顯に侍せりと乙曰ふ某紳士と某所に行けりと恰も之を自身の榮譽として喋々人に說く聞くものの多くは之を唱揚す彼妓流は之を其仲間に話し甲聞乙傳へて相互に其聘を羨み互に之を誇り終に女子中名譽の地位に立つものは藝妓ありと考ひ中等以下の人民は男を生を卑み女を生を重じ女を生ば藝妓たらしむるものとあし歲十二三に及ぶや之に敎ふるに三絃を以てし其曲婬猥聞くに耐さるものより先づ之を始むるあり都下一般の情況然り輓近延て大に亦田舍に及ばす嗚呼今日女子敎育の必用を談ずるもの夫れ茲に眼を注ぎ藝妓の地位をして卑しからしめんことを勉むべし世の貴顯紳士は勉めて是等藝妓を卑しめ今日の藝妓をして眞に藝を鬻ぐの徒たらしめよ嬌客媚を呈し喃々左右に侍する如きは之を遠け宴會の席上之を聘するを禁じ彼藝妓等をして其地位の卑しきと其苦み多きことを感ぜしめあバ世間の少女藝妓を羨むものあく獨り容姿の美を誇るの親あくして三絃の曲亦改頁を加ふるに至るへし之れ余等の第一に世の貴顯紳士に望むところあり貴社幸に一隅に塡して他の識者をして此不足を補はしめよ

○女子自立之說　小石川區小日向臺町　長榮女塾二級女生　武山春二

我か國の女子か男子の束縛を離れ自立せんと欲せは宜しく自食せさるへからすとは是れ今日女權伸張に熱心なる論者の常套語なり妾憶らく然らす自食は下等婦人の爲而已矣上等婦人の專ら爲すへきところにあらさるなり古人曰く心を勞するも

の人に養はるゝと人各々能と不能あり若し自ら手足を勞働し自食するものにして始めて自立の道を得たりとせは彼の君子は小人に依て養はれ官吏は人民に依つて養はるゝ之亦自立の體面を全ふする能はさる乎我國の女結髪者織婦諸姫の類從來自食するもの勝けて數ふへからす彼れ等も亦女子自立の體面を全ふするものとせん乎若し夫れ無學無藝徒に男子に依賴し媚を賣り色を衒ひ而して得色あるものゝ如きは固より論するに足ずと雖も苟も高等の教育を受け内にあつて男子を助け子女を育ひ一家を經紀し交際を親密にする等の責任を帶ふるものにして豈に區々自ら其の口を糊するを俟つて而して自立の體面を完ふせしものとせん哉男子か婦人に望むところのものも亦豈に區々自食の己れを累はさゝるの一小事而已ならんや抑も男子は常に外を勉め女子は常に内を齊ふ一家の經濟を經紀するか如きは男子の遠く及ふへからさるの思慮あるものあり於此乎一家の貧富盛衰一に婦人の賢愚に結果するは實地に就ひて吾人の經驗するところあり若し女子にして公道の真理に通し事物に注意するの德性を養ふの至要を省みす徒に區々たる末技に依賴し女結髪者流の自食に效はんと欲するものは抑も下等社會婦人の爲而耳上等婦人の專ら爲すへきところにあらす日に大牢の養ひを男子に受くるも亦豈に自立の體面に於て損するところあらんや自食論者幸ひに諒察するところあれ

●寄書　掲載の外。下谷荒木町金田、築地西尾、本郷中西、愛媛縣田野畑田、西京裏寺町栗津、横濱桑、大和疋田青思散人、日高高靜渡邊、越後小栗山廣井、三河島村天野、等の諸氏より婦人授産策答文。麻布日下部の大石さかえ氏の貴婦人論、淡路福良の中津海氏羅甸詩。下谷服部甲子造氏日本女子へ勸告。磐城竹貫蘆野潤三郎氏答文。正に落手仕候

●新報

○男女同權新策　として中央學術雜誌第三十九號に掲載したる者は文學士高田早苗君の新策ありときく大意女子に財產を遺傳せざれば同權の風行はれずと云ふ至極正當の議論にして人も吾も早く論述したる覺あれば世には亦た此の普通明白の良策に反對する者あらざるべし。然れども君が此の良策を打明け玉ふ迄に幾多の筆鋒を以て歐米及日本の女權論者を罵倒し玉ひたるは何等の譯なりや其意義をすら瞭解し能はざる所多し。先づ君は男女同權の論を稱して空理と呼び玉ふ而して後には君此空理を實行すべき策を建て玉へり。智ユトニック人種が女子を敬愛し女子亦た貞操を守りたるは明白の事實なり而も當時男女同權の風俗ありしとを之に由て證し得べしとは君の新論法あり。上帝を信ずるよりも更に甚しく婦人を信ぜし彼當時の武士すでに上帝と同權あらずんば婦人と同權あらざるは更に明なり而も君は之を男女同權の風と云ふ。女子をして良人を駕御せしめんと云ひ女子をして良人に一鞭を加へしめんと云ふ是れ君が所云る同權なり蓋し女權をして男子の權に超へしむるを即ち君が謂ふ所の同權なり、君云ふ夫一婦の制は男女同權の理認めらるゝに非らすんば鞏きを得ずと

蓋し然らん而して君は財產遺傳を以て男女を同權たらしめ得べしと云ふなり今ま歐米の婦女ゝ財產あり而も君ハ歐米一夫一婦の制は根據淵源を失へりと云ふ、歐米に女子參政の說を唱ふる等活潑の運動を爲す者は概ね一生不嫁の偏屈者流ありと云て而も君ハ朗蘭夫人と寶節德夫人とに夫人の二字を附するを記臆し玉へり、君は基督敎の勢力日に衰頽すと云ひ又歐米の女權論者に不嫁の女多しと云ふ是れ何等の事實ゝよりて强辨し得玉ふ乎吾人は反對の事實を呈すると共に君が其證を示し玉ハんヿを請ふ者也。要するに君が所謂る同權とハ何物乎、女が男を壓するの謂か、女子にも政權を與ふるの謂か、若くは男女相敬愛して同等の交を爲すの謂か、吾人は其意義の何如に隨て或は同權論者となり或ハ不同權論者とあるもの也

○婦人禁酒會　吾會曩に萬國婦人禁酒會書記レビット夫人を待して厚生館に女學演說を開きたる節木村鐙鬼頭益の兩子を初め有志の方々はレビット夫人に約して東京府下に婦人禁酒會を設くべき樣談議ありたり其後兩度の集會にて會則等も略ぼ出來上りたる際不幸にして鐙子の永逝あり益子に止み難き事情出來て今日迄其儘となり居たるが今度大儀見よね子（矯風會內禁酒會々頭大儀見君の令閨）三浦りう子（兩國敎會牧師三浦君の令閨）の二君其跡を襲ぎていよ〳〵實行の手筈を定められんが爲め來る九日午后二時より寅門　敎會の會堂に有志の人々を集めて協議あらんとする由他の府縣下に於て既ゝ同樣の會を設立ありたるもあれバこの會の一日も早く成就せんと希望の至にたへず

○衣服の改良　此頃色川氏は服制改良の議を日々新聞に寄せて日本服の速に洋服に改めざる可らざる由緣を細かに論述せり又社友渡邊辰五郎君は同志の人二三名と共に衣服改良會ある者を設けて同樣の意見を主張されんとす吾人は本誌三十五號に於て聊か卑見を申したる如く固より吾國婦人の洋服を着るヿに反對するものにあらざるなり然れども日本男子の洋服を裝ふは便利と經濟上の得益とあるがゆえなり我國婦人をして西洋の女服を着せしめんと欲するものハ固より別に細考する所あるを要す吾人また卑見を述ぶるヿあるべき也

○婦人慈善會委員の協議　去三十一日午後より婦人慈善會委員の夫人一同は同委員長なる伊藤伯爵夫人の邸に集會し本月中第三回の同慈善會開設の協議を遂げ夫より伯爵夫人は谷夫人を星ケ岡の茶寮に招請して晩餐を饗應せられたるよし本月一日の時事新報に見ゆ亦た今月中第三次婦人慈善會を開くに

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

先ち新嘱同會幹事高崎省吾氏の改良說と云ふを聞くに第一入揚劵は本會特出するに限り素見者なきを期して强賣の弊を矯正する事第二當初第一次回にて貴婦人と云へる名目を冠らせし弊今に遺存し志ある者も入會を恥る者あるやに付き今後は會員の紹介を要せず廣く新入を許す事第三茶店の舊慣を廢し婦人は全く奔走周旋而已に止め他は皆男子擔當し滯泊に事を行ひ度との諸項なるよしなるが此の說大に委員の贊成を得第三次回よりは實際執行する事になりたりと云ふ

○京濱婦人大祈禱會　は去る三十日築地新榮教會に於て開會せられたり當日は雨天なるにもかゝわらず京濱の基督信徒婦人は午前十時迄に無慮三百人も集まれり司會は內田はな姉にて基督のあかしと云ふ題にて勸話あり多くの婦人あるひは祈りあるひは立て感じを語られ十二時に開會し午後二時より亦た開會せられ司會は櫻井女學校女教師ツルー氏にて思想と言語と云ふ題にて熱心なる說話あり其他の諸子も午前の如く各く感話祈禱ありて四時散會せらるツルー氏說話の大意は我が國の婦女子は其語る處平生人の批評など實に諜々しく聞くに堪へざらしむこれ他なし其思想の高尚ならさるによる思想もし高尚なれば口頭に顯はるゝの言語必ず野鄙ならず故に吾等は熱心思想の高尚に進歩せるを希はざるべからずと述べられ橫濱共立女學校教師ピヤソン氏の勸めもあり其他に感ずべき說話祈禱多かりしよしなり此の會は春秋の二期に於て基督信徒婦女子の一致結合を計らん爲めに開らかるゝ會にして多年同窓の朋友に離れ親愛する教師に遠り居る人など當日一會堂に集り握手對床の喜びを得道の爲めに働らく可き覺悟を養ひ知らさるの友を得るなど實に有益の集會なり當日はあらかじめ神戶大坂西京などの會員に通じ置きて同日同刻に彼此相會するなどの定めもあるよしに聞く實に此の會の如き日本女學の先導と云ふも誣言にあらざるべし

○女學校　此度高等女學校の教師として御傭になりたる米國人プリンス氏は兼て米國にて女塾を開かれ居たるが女子教育には熟練の聞へ高く且つ熱心なる基督信徒の由又た近々同校附屬の寄宿舍を建築し若干の生徒に寄宿を許して西洋の教師に監督を托し舍內をホーム(家族)の組織に制して經濟衞生の万事を實地に教授し專ら女德の感化を勉めらるゝ由建築の雛形も出來したる趣に聽ば落成も遠からざるべし何れも皆同校の爲に慶賀すべき佳報と云べし。宮城の女子英學校は教員フーアボー孃オート孃人見ぎん眞輪某の四女史にて既に授業も

始まりたる由尤も同校ハ基督一致教會の設立に係るものあり
○福岡の婦人　當地の婦女子は其成す所種々なるによりて詳細を報道する能ハず唯だその概畧を記るさんに士族ハ子女中にハ裁縫(和英)養蠶、製糸等凡て盛なり土地を有するものは田畠及び家屋しきの内外を問はず桑を植へ春夏の頃之を養ひ秋冬の頃製糸に從事す裁縫は自家に於て子女を教授するものにて生徒を教授する者あり裁縫店に雇はるゝ者あり特に近來ハ洋服盛なるを以て洋服仕立の修業をなす者多し其次ハ傘製造業製本業活字業等にして傘製造ハ久留米赤松社(舊士族授產の爲に組織したる一の會社)にて數百人の婦人外國輸出の傘を製造す製本業ハ當縣下ハ書肆の數割合に多し特に當福岡星文館の如きハ書籍出版會社にして九州地方の教科書ハ大概一手に引受け出版するを以て常に數十人時によりてハ數百人の婦女を雇使せり活版所も其數十余ケ所ありて組立組くづし字拾本仕立等大概ハ婦女を雇使せり其他女教師及び耶穌教會設立の英和女學校へ入學する者頗る多し月琴十三絃の稽古に從事する者あり是等ハ幾分か俗樂の内にて高尚なるものなれども小女の三絃を弄するを以て料理店に奉行する者あり其子女の三絃或ハ手踊をよくするを以て客席に給仕に招かるゝを名譽となす父母多きを以て下等社會の子女ハ晝夜三絃の稽古絶間なしこれ妾の常に慨嘆する所にん(未完)(福岡、甫守れる、報)

○グードリチッチ夫人　第三高等中學校雇英語教師グードリッチ氏の夫人ハ諸學に通じ殊に手藝に通ぜし人にて毎木曜日に東區船越町二丁目基督教講義所に於て有志の人に毛絲細工及び裁縫等を教授せらるゝよし大坂日報にあり

○竹内ふく女　愛知縣下三河國碧海郡知立驛醫師竹内雲僊氏の令閨ふく女史ハ女の學ぶべき道は漏らす事なく心に修め中にも和歌をよくし二三の著書をもなして遠近にその名高く從つて女史に教を受くる男女數多ありしが此度伊勢神宮　管長田中頼庸君より教師試補申付られたりと同地井村輝太郎氏よりの通報ありき

○莫大小の編物　長崎に於て該業の女生徒は日に増し入學する者あり同地の有志家も大に該業の目的を賛成し株金を募集しあるひは發起者贊成者にて釀金し益々盛大になす目的のよし佐賀新聞に見へたり

●正誤　前號新報欄内第二項の踏舞會設立の事は全く誤聞の由吾人は之を正誤し得るの幸を慶賀す

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○萬國婦人禁酒會規約　別項に記する如く今度東京婦人禁酒會を設立あらんとするに付ては其規約細則等一に彼の萬國婦人禁酒會の定に從はるゝ乎若くはたゞ之を雛形として增減さるべき乎其何如は九日の會合よりて定るものと雖も吾人は便宜の爲め左に萬國婦人禁酒會規約の要部を揭けて同志者の參考に供ふ

第一條　名稱

本會は婦人基督教徒禁酒會と稱す

第二條　目的

本會の目的は公共の情意を敎育して以て禁酒の標準に達せしめ世の年若き者を敎訓し酖酗者を救ひ而して法律上の禁令を得て全く酒類販賣の跡を絕しめんと欲するに在り

第三條　會員

凡そ婦人にして此の規約を承諾し名簿に名を書し全力を盡して禁酒の目的を擴張すべきを誓ひ每年本會の會計に金、、、、、を拂ふ者は本會の會員に列するを得べし且つ又左の誓約に名を書すべし

誓約

今玆に上帝の祐助により和洋一切の酒類を禁廢し又た世の之を飮用し販賣することを廢止するに至らん爲め凡て適當の方法を盡さんことを誓ふものなり

男子にして一年に金、、、、、を納むる者は名譽會員たるを得べし

第四條　役員

本會の役員は會頭一名副會頭(成るべくは各敎會より一人宛)書記會計とし時宜により副書記副會計を撰び各部の部長と併せて事務執行委員となすべし

第五條　役員職務(畧)

第六條　年會

年會は每年　月に開くべし但會員の投票に因て其日を定む且つ當日に次年の役員を撰擧すべし

第七條　改正

預め書面に認めたる告知を前集會に爲しをき本會の定期會に於て會員三分の二以上の贊成を得る時は規約を變更し又改正するを得べし

附則

第一　事業の區分

各地方の需要に隨て左の如き區分を設くるときは之が部長を設くべし

第一遺傳に關する事。第二衞生に關する事。第三禁酒の敎訓を學校敎科書中に編入する事。第四日曜學校の事業。第五少年に關する事業。第六禁酒に關する文學書。第七新聞紙をして禁酒の主義を贊助せしむる事。第八傳道の事業。第九監獄及び巡査市營に於ての事業。第十鐵道工夫の爲の事業。第十一兵卒及び水夫の爲の事業。第十二聖晩餐禮に醱酵せざる葡萄汁を用ひしむる事。第十三少婦人を奬勵して本會の爲に働かしむる事。第十四客室內の集會。第十五年少の貧女に家事を敎ふる事。第十六贈花傳道。第十七農業觀覽等に酒類を用ひしめざる事。第十八立法及び請願に關する事。第十九土人中の事業。第二十不潔の文學書を禁止する事。第二十一男女間の惡弊を芟除する事(以下畧)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

見て人妻たるもの教育を受けさるも立て行ふべし何も不急の事をなすに及ハずと云ふにあり故に土地の富商有志家に計り一製造所を設立し(養蠶、製絲、織機、製紙、等)の實業をなさしめ傍ハら之を教育せバ必ず志願者あるべしと思ハる

ハ　師範學校に女子部を置くか然らされバ特に女子教育法の一科を置き以て教育者の注意を惹き併せて人民の感を起さしむべし

ニ　資力のある土地にては女子美術學校を設け其得所を修練すへし

ホ　各地方に學齡以下兒童の保育所を置き以て所謂子守の供給の道なからしむへし(蓋し貧家の子女の不就學ハ多く此子守をなさしめ以て生活を計るによる)斯の如くせバ一時頗る困難あるべしと雖之に由りて子女就學の數を益す事必せり(保育所の事ハ大日本教育會の試問題あり近き內其雜誌に載せらるべし故に吾之を詳說せず)

結論

以上の大意を概括して言へバ女子教育ハ目今の時勢より必要あり吾國の教育ハ振ハず故に其害即ち舊來の習慣を破り早婚を禁し世々流行する小說の體を改め其利即ち裁縫指南所を置き女子の實業學校を設け師範學校に女子部を置き及兒童の保育所を設立し以て女子教育を振ハしめ其得所を修練し順次を以て之を施し天晴日本の婦人第二代目の日本人民の母たるに恥ちざるやうになさむとするにあり當今の女子教育策蓋し是れ也

(右にて乙點の論文終る)

●丙點

筑後國三池集治監傍　西原いの

教育の重んずべきことは今更妾達の申すまでもなきことにして英國にてもジョンノット、スペンサーの諸大家は特に教育論を著はして此事を論ひ給ひぬ我國にても博學の殿原は疾くに此等の大著述を譯せられ或は各自の意見を物され自家の信する道を主張せられぬ誠に我國現今の學問戰場の內教育學にかゝる議論は全隄を占めたるものゝ如しさは云へ妾も今教育の事を說くには先つ我國婦女教育の有樣より說かまく欲りす方今我國の婦女教育の有樣を見れは高等師範學校中の女子科華族女學校及各地方師範學校の女子科にて多少高尙なる普通學を敎ふると一二私立學校あるのみ之を男子の教育に比すれは實に雲泥の差ありと申すべし西洋の或る學者の說に虛飾より實益に進むは文明世界に於て事物の通義なり野蠻國の土人か其身體に裝飾(文身黥面の類)する風あるか一たひ文明の空氣を呼吸するに及んでは教育と云ふ實益ある一種顏料を以て裝飾とするに至りぬべし今我國にても男子に比すれは婦人は虛飾を要することも多けれは其割に實益ある裝飾も男子より多きを求むるも決して少なかるべからざるなり而るに我國の有樣は右に述へたる如き者なれは實に妾達か痛みて措さる所也さて此女子教育を盛んならしむるの方法は如何と云ふに妾の考にては左の五ヶ條に外ならすと信す

第一○　早婚の弊を除くべし

第二○　女學校に手藝科を設くべし

第三○　郵便撰り分け電信技手其他商店の簿記方婦人の出來得

る職業には可成婦人を用ゆべし

第四。貴女紳士達の盡力を以て女子高等夜學校を設くべし

第五。婦人敎育には意味を會得そるを旨とすべし

左に此五ヶ條を一々說明すべし

第一。早婚の弊を除くべし

早婚は衛生上より論ずるも人種學上より云ふにも理財上より說くも皆甚た害あることは人の皆識るところなりと雖とも妾は敎育上に於ける早婚の弊は此等三種の害より一層大なりと思ひ侍りぬそをいかにと云ふに日本國の婦人は十五歲に充るを待て急に婚姻するもの多ければ未た身躰の榮養不充分にして躰中の機關不完全なるに早くも夫を迎へ人に歸つくか故に處女の時折角勉めたる學問も用ゆる處なく且つ種々の病を引き起し(殊に子宮病腦充血)感能の資力を耗失せしむ又たよし此等の患なしとするも胎孕するときは兎ても己の學問ゐ心を寄することは中以下の人にはむつかしかるべし今試に世界各國女子歸頁の年齡を比較するに

日本	十九年。四	魯西亞	二十一年。五
佛蘭西	二十四年。九	伊太利	二十五年。四
英吉利	二十五年。五	普魯西	二十六年
和蘭	二十八年	瑞典	二十八年。三
白耳義	二十八年。五		

右の次第なれは日本の如き早婚の國は他の文明國には決してなく其最も早き魯西亞にすら二年一月の差あり白耳義の如き最も遲きものには九年一月の差あり今更に日本國内にて最も早き者は岩手十四年。九　青森十五年。五　岡山十五年。一にして其最も遲き德島にても二十三年なりとす夫れ二十年未滿は未た成年に至らず凡へて一人前の部分に入らざるものなるに十四五年にして人に歸づく其身躰の強壯を望み其子孫の繁榮を祈るも得るの理なし已に身躰の強壯を望み子孫の繁榮を祈るに暇なし何んぞ身自から修め研くの餘裕あらんやこれ妾か早婚を以て婦女敎育の第一碍害物となす所以なり而して之を除くの方便は法律にあるべきや否やは他の論となし妾は我か敏捷なる諸姉達か歸頁の延期を其親御方に請求するを以て最も手近き方法なりと信ずるなり

第二。女學校に手藝科を設くべし

扨前に述へたる如く親御方に婚姻の延期を請求することなれは子の義務として自食自學の途を求めさる可らず、よし自食自學は得べからずとするも責ては幾分か親御方の生計をたすけ學資の足しにする工夫なかるべからず故に妾の思ふよしには凡への女學校にて裁縫は素よりの事としてレース養蠶紡績製糸其他の手藝を敎ふる事となしては如何是れたゞに女子自身に利するのみならず幾分か其學校費を償ふことを得るならん西洋にても宗敎學校等にては重に此法を用ひ其他の學校抔にては追々此法によるものある趣なり今精詳なる統計を欠くを以て充分に論ふの材料なしと雖ともレース其他の如きは重に手間の價あるものなきは之を習へは從て自らの身廻の代となすを得て又幾分か親御方の生計を助くるを得るならん。これ妾か此方法を以て婦女敎育の第二策となす所以なり

第三。郵便撰分け電信技手商社の簿記方等凡へて婦人の出來得べき職業には可成婦人を用ふべし

凡そ需用なくして供給を減するは天下の通義なり今爰に商人あり買入なくして更に仕入する如きことあらは其品物は持腐れの有様となるへし故にかゝる場合に於ては決して仕入することなかるへし女子の教育振わさるも亦たこゝにあらんか今日にては學藝ある女子と云へとも其學を鬻き其藝を沽るに處なきか爲めに從て其學藝を仕入るゝことなきに至る品物の堆積して捌け口なき之を不景氣と云ふ日本今日の實况は經濟上の不景氣と同時に亦た婦人教育の不景氣を患ふるものと云ふへし此病を救治する如何曰く婦人の出來得へき仕事には可成婦人を用ゆべし蓋しかく婦人の需用を急にすれは從て其供給の度を促かし供給已に増す婦人教育の盛んならさるを欲するも得んや且つ婦人は事物に熱心にして且丁寧加ふるに男子に比すれは其給料も減少すれは妾の第三策婦女子自食の途を開くと共に國家の經濟にも影響するところあるへしこれ妾が婦人教育策に數へたる所以なり

第四。貴女紳士達の盡力を以て婦人高等夜學校を設くへし

婦人は終日家に在りて家政を齊ふるものなれば晝間は到底學問を修むるの暇はなかるへし故に夜學校を設くべしとの策を起したり一躰妾の思ふところにては教師を其宅に延きて其學藝を研くことを致さまく欲りせしもかくてハ學資を要する事多けれは已むなく夜學校の事を擧げしなり扨て其設立は官公立の設立にあらす有力貴女紳士達の賛助を以てするの最も速に其成果を見んことを覺ゆ又貴女紳士には必す喜んて其舞踊或會食の資の幾分を割かれんことを信するなり競馬の婦人財嚢と夜學校設立に於ける財嚢と孰れか社會に公益を與ふへきや

第五。婦人教育には意味を會得するを旨とすへし

婦人は男子に比すれは教育を受くる時間短き者なれハ餘りにむつかしき語句をならへたる教科書ハ之を省きたし何んとなれは字句を識るに許多の時日を費やして肝心の書物の義を悟るを遲からしむるものなれハなり故に妾の考ふるところにてハ婦人の教育ハ羅馬字なり假名なり何れにても字數の少なき字を以て平易にかきたる義理を用ひ其語句の六ヶ敷に苦しむだけの力を以て書物の意味を會得するの能力に充つることあらハ婦人教育の進化日を期して待つへし之を妾が第五策となす

以上五策并ひ行ふを得る時は即ち婦女教育に一大進化を告くる時期ありと覺悟せさるへからす但五案并ひ行ふこと能はずば責てハ其内一二策を用ゆるにても其功驗少なからすと信すスペンサー氏言あり曰く土蕃中其顔料を得んか爲めに數週間勞力するを辭せすと土蕃すら有形の虚飾に苦心するとかくの如し妾か諸姉妹は其形而上の裝飾を得んとに熱心せらるゝハ妾が信して疑はざるところなりセークスピーヤ氏曰く醜毒なる蝦蟆と雖も貴き寶玉を戴くことありと妾か言無稽たるに免れすと雖芻言亦た採るべきあらんか

(右にて丙點の論文終る)

第二回點取文始末大尾

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

社告

演說著作 材料新誌 第八號出版

弊社發行の材料新誌は古今の著書中より演說著作の材料となるべき金言、名句、卓論、奇事、偉行、佳話、の類を集めたるものなり素と社員が文壇の時弊を見て餘業に編輯し發兌するものなれども世上の好評甚高く發賣部數も漸々に增加せり女學雜誌愛讀の諸氏は又同樣に御注文ありて編者の微志と苦辛とを御承知あらんとを希ふ

右每月一回宛發行。紙數三十頁附錄四頁。一冊十錢全國無遞送料。見本を要せらるゝ方は郵劵代用にてよろし

書籍取次

弊社は看客の便利を圖り凡そ女學に關係ある書籍にして東京府下の書肆中にて出版したるものは一切無料にて取次郵送可仕候依て右注文の方は書名と出版者の宿所姓名とを合せて定價の金員を送附あるべし大抵は其內にて郵送賃を辨じ申すと雖も大部の書は別に郵賃を請求可致候

賣捌所取次の看客に告ぐ

女學雜誌大賣捌の書店中不都合の廉御座候節は直に御賣を中止仕候社則に付右樣の書店より本誌購讀の看客はそれが爲め御不便不尠と存じ候よつて向後右樣の次第にて書店より御配達不仕節は直に本社へ御一報有之度（從來何書店より購讀せしとの旨御記入ありて）候早速郵送致し厚意を空せざる樣致度希候也

女學雜誌社

女學書類取次

婦人地球週遊記(一册)英國ブラッセー女著、内田彌八氏譯。定價七十錢。本誌第廿六號に批評あり。

日本之意匠及情交(一册)田口卯吉君著。本誌第廿七號に批評あり。定價十五錢。郵稅六錢。

賢女脩身事蹟(三册)今川肅君著。本誌第廿八號に批評あり。定價三十六錢。郵稅十二錢。

ひざもとの敎(一册)近藤眞樹女著。本誌第卅二號に批評す。定價十錢。郵稅四錢。

いへのをしへ(一册)松山高吉君著。本誌第卅四號に批評す。定價三錢。郵稅二錢。

日本婚姻の弊害(一册)大島盛三君著。本誌第卅五號に批評す。定價十二錢五厘。郵稅四錢。

看病の心得(一册)笹川純一君著。本誌第卅五號に批評す。定價三十錢。郵稅六錢。

演劇改良論私考 一册)外山正一君著。本誌第卅六號に批評す。定價二十錢。郵稅四錢。

社會改良と耶蘇敎との關係 同前著。本誌第卅九號に批評す。定價廿五錢。郵稅六錢。

小兒健全示要(一册)岩田文吉君著。本誌第卅六號に批評す。定價四十錢。郵稅十錢。

女子必讀(一册)進藤直温君著。本誌第卅七號に批評す。定價五十七錢。郵稅十錢。

朗蘭夫人傳(一册)坪内雄藏君譯。本誌第卅九號に批評す。定價六十錢。郵稅十錢。

日本婚姻法論畧 一册)鈴木券太郎君著。本誌第卅八號に批評す。定價五十五錢。郵稅十錢

日本婦人纂論(一册)井上直女編。本誌第卅號に批評あり。定價二十六錢。郵稅六錢。

(右取次賣捌) 東京本郷弓町一丁目廿楢地 女學雜誌社

六合雜誌

第七十號。十月發行。每月一册發兌

●目次●論史(文學士高田早苗)人類學一斑並評原人論(高橋五頁)文明の前途下(浮田和民)基督の復活を論ず(植村正久)日本のロマ字(博士フルベッキ)宗敎の起原(小崎弘道)○心理學講義○外山正一氏の新著を評す○日本の能辨と速記法○一册十錢 全國無遞送料

基督教新聞

第百七拾號 十月廿七日發兌

每水曜日刊行

○基督敎新聞(一)時弊を嘆ず(二)東京基督諸敎會の模樣を評す○敎報○雜錄(一)歐洲諸國宗敎改革の顛末(第七)(二)我日曜日學校を如何せん(三)萬事皆可(其十六)(四)仁者は恥を恥とせず○投書、京濱婦人秋期大祈禱會の委員姉妹に望む雜報及び社評○英文○廣告

發行所 東京々橋區瀧山町六番地 警醒社

教育時論第五十五號目錄

明治十九年十月廿五日發兌一册定價五錢郵稅共六錢

○社說師範生徒に敎育上の熱心を喚起せしむるの必要○與論一斑嬰兒語忽ニス可ラズ●躰育上ノ注意●僧侶ニ敎員チ兼チシムラス●女子ノ躰操●男女ノ間ハ兄妹ノ如クナルヘシ●小學校ニテ格言幷ニ寓言チ以テ敎授スルノ利害如何●通俗三寶新說○論說實物敎授論(郡司篤則)●小學試驗法チ論ス(西岡品藏)○學術黑科氏創造史(承前)山形悌三郎稿●婆氏敎員養成論(承前)松島剛譯●哲學道中記(承前)井上圓了○雜記かなのくわいかきかたかいりよぶのしらせ●英文三節●送別の歌●天氣の歌●燕澤の碑の讀方●嬰兒語蒐集○論題小學校ニテ書牘文チ敎授スルニ男女文躰チ同一ニスルト之チ區別スルトノ論議(十六編)內外雜纂三十件○官報抄錄○廣告

東京下谷區練塀町十四番地 開發社

婦人禁酒會設立の相談

有志の婦人來る九日午后二時より虎門敎會々堂に集りて東京婦人禁酒會設立の事を相談いたし候へば同志の方々は何卒御來會を乞ふ

發起人代 大儀見よね子 三浦りう子

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

速記叢書 **講談演說集**

●第二冊目次● かな世界の準備（近藤眞琴君）○半開化は衞生の害（渡邊鼎君）○孛國の司法制度を說き併て所感を演ぶ（三好退藏君）○法律と經濟との關係（細川潤二郎君）○基督敎は社會進步の爲に必要あり（フルベッキ君）。

定價郵稅共特別割引前金一冊に付十四錢（取次）

女學雜誌社

添註 **土佐日記俚言解** 小中村淸矩校閱 佐々木弘綱註解 ○金四十錢 ○全二冊

竹取物語俚言解 佐々木弘綱先生解 ○金四十錢 ○全二冊

文話 鈴木弘恭先生著述 三大人批評幷小序 **上下** 合本（完）定價金四十錢 郵稅六錢

此書は古事記出雲風土記祝詞式續日本紀竹取物語空穗物語伊勢物語源氏物語枕草子土佐日記蜻蛉日記紫式部日記更科日記十六夜日記等より撰集して本文の傍に眼目照應對句抑揚頓坐省筆等の簽を附し一目して文法を了解し易く示されたるを黑川眞賴小中村淸矩田中賴庸等の卓識を以て詳細に評語を下し給ひたれば眞に本朝作文の撲範とす可き良書なり

東京本鄉區春木町三丁目十四番地 文苑堂

田口卯吉著。中根淑先生跋

日本開化小史 全六冊

●舊定價一圓二十錢 ●改正定價九十錢

此書は日本開闢の初より戊辰の變に至るまで政治上社會上及人心上に顯はれたる事件を記載し其原因結果を說明したるものにして**高等女學校明治女學校**其他數多の學校の**教科書**となりたれバ此度定價を減し聊か江湖の愛顧に報ひ候也

東京々橋區彌左衞門町經濟雜誌社○同日本橋區通二丁目小林新兵衞○同通三丁目丸善書店○同神田區小川町中央堂

定價

一册。五錢 郵稅。一錢	（但府內無郵稅）
十册。四十八錢郵稅。十錢	（同前）
廿册。九十錢 郵稅。廿錢	（同前）
卅册。一圓卅錢郵稅。卅錢	（同前）

一ヶ月分女學雜誌代價	十五錢	府外ハ十八錢
二ヶ月分同	三十錢	府外ハ三十六錢
三ヶ月分同	四十五錢	府外ハ五十四錢
半年分同	八十八錢	府外ハ一圓六錢
一年分同	一圓六十錢	府外ハ一圓九十六錢

廣告

一行（廿八字詰）	一回	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評す

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町	巖々堂
東京芝西久保櫻川町	萬春堂
東京神田區雉子町	團々社支店
同神田區佐柄木町	東海堂
同日本橋區新葭町	良明堂
同日本橋區馬喰町二丁目	自由堂
同京橋區木挽町壹丁目	萬字堂
同本鄉區元富士町	盛春堂
同本鄉區春木町二丁目	解明堂
京都四條通小橋へ入	澤集光堂
大坂備後町四丁目	岡島支店
伊勢國松坂白粉町	家里初枝
仙臺國分町五丁目五番地	伊勢安支店

發行所 本局 東京本鄉弓町壹丁目廿番地 **女學雜誌社**

持主兼編輯 巖本善治

印刷 森田豐

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.06 six months, *yen* 1.96 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamot, at Jogaku-Zasshi-sha, No. 20 Yumichô, Hongô, Tôkyô.

郵遞局認可

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

の害　渡邊鼎君）○李國の司法制度を説き併て所感を演ぶ（三…
好退藏君）○法律と經濟との關係（細川潤二郎君）○基督敎は
社會進歩の爲に必要あり（フルベッキ君）。
定價郵稅共特別割引前金一册に付十四錢
（取次）女學雜誌社

添註 **土佐日記俚言解** 小中村清矩校閲 佐々木弘綱註解 ○金四十錢 ○全二册

竹取物語俚言解 佐々木弘綱先生解 ○金四十錢 ○全二册

文話 鈴木弘恭先生著述 三大人批評幷小序 **上下** 合本（完）定價金四十錢 郵稅六錢

此書は古事記出雲風土記祝詞式續日本記竹取物語空穗物語伊勢物語源氏物語枕草子土佐日記蜻蛉日記紫式部日記更科日記十六夜日記等より撰集して本文の傍に眼目照應對句抑揚頓坐黑省筆等の簽を附し一目して文法を了解し易く示されたるを黑川眞頼小中村清矩田中頼庸等の卓識を以て詳細に評語を下し給ひたれば眞に本朝作文の摸範とす可き良書あり

東京本鄕區春木町三丁目十四番地　文苑堂

日本開化小史 田口卯吉著。中根淑先生跋　全六册
●舊定價一圓二十錢 ●改正定價九十錢

此書は日本開闢の初より戊辰の變に至るまで政治上社會上及人心上に顯はれたる事件を記載し其原因結果を説明したるものにて**高等女學校明治女學校**其他數多の學校の**教科書**となりたれば此度定價を減し聊か江湖の愛顧に報ひ候也

東京々橋區彌左衞門町經濟雜誌社○同日本橋區通二丁目小林新兵衞○同通三丁目丸善書店○同神田區小川町中央堂

廣告價

一ヶ月分女學雜誌代價十五錢	府外ハ十八錢
二ヶ月分同　三十錢	府外ハ三十六錢
三ヶ月分同　四十五錢	府外ハ五十四錢
半年分同　八十八錢	府外ハ一圓六錢
一年分同　一圓六十錢	府外ハ一圓九十六錢

一行（廿八字詰）一回　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評す

WOMEN'S MAGAZINE.

"Jogaku Zasshi."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.06 si[x]
[mon]ths, *yen* 1.96 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iw[amoto]
at Jogaku-Zasshi-sha, No. 20 Yu[micho]
Hongō, Tōkyō.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町	巖々堂
東京芝西久保櫻川町	萬春堂
東京神田區雉子町	團々社支店
同神田區佐柄木町	東海堂
同日本橋區新葭町	良明堂
同日本橋區馬喰町二丁目	自由堂
同京橋區木挽町壹丁目	萬字堂
同本鄕區元富士町	盛春堂
同本鄕區春木町二丁目	解明堂
京都四條通小橋へ入	澤集光堂
大坂備後町四丁目	岡島支店
伊勢國松坂白粉町	家里初枝
仙臺國分町五丁目五番地	伊勢安支店

發行所　東京本鄕弓町壹丁目廿番地
本局 **女學雜誌社**
持主兼編輯　巖本善治
印刷　森田豐

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY